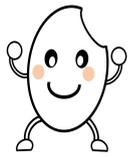




# 出穂後の管理作業のポイント



まとまった雨が降らず、暑い日が続いています。長期予報では今後も暑い日が続くと予想されており、高温に対する備えが必要です。適切な管理で品質低下を防ぎましょう。

また、農作業の際にはこまめに水分補給をし、熱中症にご注意ください。

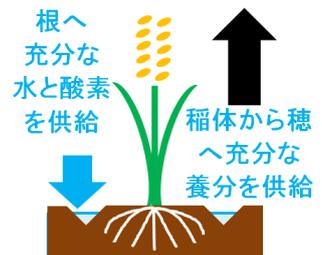
## 米の品質低下を防ぐ水管理

米の品質低下要因の一つ「白未熟粒(乳白米等)」は、高温年に発生しやすくなります。高温による白未熟粒は、根へ十分な水と酸素を供給することで軽減できるので、適切な水管理で品質低下を抑えましょう。

### 【出穂後の水管理のポイント】

- ①序盤(出穂から10日まで)は水を切らさない  
(できれば、夜間かけ流しで温度を下げる)
- ②中盤(10日後から3週間まで)間断灌水  
(理想は飽水状態)
- ③終盤(3週間以降)は、間断灌水の間隔を徐々に長く  
して収穫に支障が無いように！

### 【飽水状態は理想の環境】



- 足跡に水が残っている状態
- ・田は湿って見える
- ・手で触れると湿り気を感じる

## 猛暑年にはトビイロウンカに注意が必要です

高温多照の天候で発生が助長されるので、今年は注意が必要です。仕上げ防除を行っても、収穫直前に坪状に枯れる被害を出すことがあるので、収穫まで、時々様子を見ましょう！

### 【発生状況を確認し、必要なら追加防除！】

圃場に入り、トビイロウンカの虫数を確認しましょう。株元を2~3回程度軽く叩き、右の図を参考に水面に落ちた虫を数えてください。

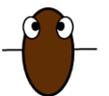
〔かたまって発生するので圃場のあちこちを5株ずつ5カ所  
合計、25株程度観察し、株当り虫数を求める。〕

- ・大きなトビイロウンカが8月下旬に株当1頭、9月上旬に2頭、9月中旬以降に株当り5頭以上いる場合防除が必要です。

※ 防除の際は薬剤に記載の「収穫前日数」を確認し、適切に防除しましょう。

### トビイロウンカ短翅成虫・幼虫の特徴

- ・小さい(大きなものでも3~5mm)  
成虫でも5mm  
老齢幼虫で3mm程度
- ・丸っこい
- ・体色は褐色(トビイロ)
- ・水面に落ちると水平に足を広げる



### 株元に多発している様子

